

緩やかな管理の重要性－エチオピア南西部高地森林域からの事例－ Importance of Loose Management: A Case of Highland Forest of Southwestern Ethiopia

伊藤 義将^{1*}
Yoshimasa Ito^{1*}

¹ 京都大学 アフリカ地域研究資料センター

¹Center for African Area Studies, Kyoto University

本発表は、エチオピア南西部の高地森林域で行われた森林保全活動が、却って森林の多様性を低下させている可能性があることを指摘するものである。

エチオピア南西部の高地に立地する広葉樹の森は、単なる森林資源として貴重なだけでなく、多様な生物の生息域として貴重である。国土面積に占める森林の割合が3%程度でしかないエチオピアにとって、この森林が貴重な森林資源であることは言うまでもない。しかし、それ以上に、エチオピア南西部の高地森林は生物の多様性が高く、エチオピアを起源とするアカネ科の*Coffea arabica*やショウガ科の*Aframomum corrorima*の他、絶滅が危惧されているバラ科の*Prunus africana*やムラサキ科の*Cordia africana*なども生育している。

地域住民にとって、この森は生業活動を行うための場所である。エチオピア南西部の高地に位置する、ゲラ行政郡に住む人々は、母村で畑を耕しながら、森に自生する*C.arabica*の果実（後に、コーヒー豆へと加工される）を採集している。彼らは、*C.arabica*と競合する樹木の幼樹や稚樹、雑草の刈り取り作業を行う以外は、特に*C.arabica*の管理をするわけではない。

2003年から2012年まで、ゲラ行政郡では、住民生活の向上と森林保全の両立を目指す、住民参加型の森林管理プロジェクトが行われた。このプロジェクトでは、地域住民を構成員とする森林管理組合が組織された。また、森林管理組合員の生活を向上させるために、森林から採集される*C.arabica*の果実をプレミアム価格で販売できる仕組みが整えられた。

本発表では、まず、この地域の森林に多様な植生がモザイク状に成立している点を確認したのち、モザイク状の植生が成立した背景には、地域住民が*C.arabica*の果実を採集する活動を通して、緩やかな森林管理を行ってきたことがある点を指摘する。そして、住民参加型の森林管理プロジェクトによって導入された、*C.arabica*の果実をプレミアム価格で買い取るしくみは、森林植生の多様性を低下させ、結果として生物の多様性も低下させてしまう恐れがある点を指摘する。

キーワード: 緩やかな管理, 森林保全, 高地森林, コーヒーノキ (*Coffea arabica*), エチオピア

Keywords: loose management, forest conservation, highland forest, *Coffea arabica*, Ethiopia